



〒584-0078 大阪府富田林市加太 2-7-7 TEL/FAX:072-368-3135 E-mail: user@ut-net.jp https://ut-net.jp

令和6年11月30日発行(第271号)毎月5日発行(特別号)年間購読料6,000円発行所株式会社ユーザー通信社発行人 植村和人

### MEASUREMENT PRIDE

精密測定機器

UNO 宇野株式会社

URL http://www.uno.co.jp/

### 日本機械工具工業会

### 神奈川・大磯で秋季総会開く

業界功労賞に牛島望氏(元・住友電工副社長)

### JTA、今期生産額見通しを下方修正

4950億円↓4703億円



業界功労賞の表彰を受ける牛島氏



賛助会員ら80社132人が出席

2024年度の秋季総会を大磯プリンスホテル(神奈川県中郡大磯町)で開催し、正会員および賛助会員、来賓、事務局ら80社132人が出席した。

初めに、業務都合により急遽欠席となった松本会長のあいさつを、不二越新基幹システム推進部の浦本武志副部長が代読し、同工業会の今年度4~8月までの生産額が、月平均で約386億円であるとした上で、今年前半は、半導体関連企業を中心に景気が向上してきたとの情報もあつたが、工具メーカーにとってはその景気上昇の恩恵を受けていない状況下にある、このまま進むと単純計算で、2024年度生産額は約4630億円に留まり、6月の当初見込み4950億円(対前年同期比6.7%増)に届かない。このため、遺憾ながら改訂生産額見通しを4703億円(同1.3%増)とした」と述べた。

来賓あいさつでは、経済産業省製造産業局産業機械課の川内拓行課長補佐がWeb出席し、令和7年度経産省関係合計の概算要求額である2兆3596億円の計上について、機械工具に関連のある「中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金の要求額20億円(新規)」、「グローバルサウス未来志向型共創等事業の要求額35億円(新規)」、「成長型中小企業等研究開発支援事業の

要求額142億円」、「GXサプライチェーン構築支援事業の要求額777億円」に関して、それぞれの事業目的や概要、事業スキーム(対象者、対象行為、補助率等)、成果目標、事業期間など直近の施策を説明し、「今後中小企業をサポートしていく」と強調した。

次いで、佐橋稔之副会長(住友電気工業常務)が議長を務め、議事報告事項に進んだ。

2024年度「日本機械工具工業会賞」では、「業界功労賞」をアライドマテリアル会長の牛島望氏(元・住友電気工業副社長)が受賞。「技術功績賞」は住友電工ハードメタル、タンガロイ、三菱マテリアルなど7社9件が、「技術奨励賞」はイワタツールが、「環境賞」は大賞と特別賞各2社が受賞した。なお「技術功績大賞」は今回該当製品がなかった。

受賞者を代表して牛島氏は、同工業会(旧・超硬工具協会含む)での経歴や当時の運営諸施策、主な出来事などを紹介しながら、「これからも厳しい大変な時代だと思うが、JTAのますますの発展と出席者各位の健勝を祈念する」とあいさつした。

そのほか、委員会報告では、「総務」技術「環境」国際「各員会の委員長が、2024年度の活動内容や今後の取り組み等について発表。講演会では、元シャープ・イソディア社長の磯貝富夫氏が「最近のインド事情

とインドとの付き合い方」10ヶ条D、os&Don、t」と題して、人口14億人を超えるインドの市場規模や日系企業のインドでの最近の動き、日本とインドとの違い等について、約2時間にわたり説き、「郷に入るとは郷に従え」と締めた。

小憩後の懇親会では、寺島誠人副会長(東鋼社長)が、開催地の大磯に関する業界トピックスや経済動向などを話し、乾杯発声の音頭をとった。中締めでは、佐橋副会長が「国内は未だ盛り上がり

アフターJIMTOF 植田機械 『UMモールドフェア』開催へ

来年1月23日(木)~24日(金)・インテックス大阪

関西では「アフターJIMTOF」としておなじみの植田機械(東大阪市、植田修平社長)主催による『UMモールドフェア』(第11回)が、2025年1月23日(木)・24日(金)の2日間、大阪南港のインテックス大阪5号館で開催される。

西日本最大級の展示会に、JIMTOF2024出展の最新鋭工作機械・機器が勢ぞろいし、「CN(電動化)に取り組む自動車産業の現状」など2本の基調講演、出展社(58社、11月15日現在)による技術セミナーに加え、「鹿児島県の立地環境と魅力」など7本のセミナーを連日予定している。また、補助金相談窓口も設置される。

り欠けるが、皆さま方と一致団結して、欧米やアジアに負けずに世界に進出していく工業会にしていく」と呼びかけ、威勢良い三本締めで散会した。

TKD 株式会社 タケダキカイ

京都営業所 ☎075-861-1811 FAX.075-661-1824  
 徳島営業所 ☎0749-26-1801 FAX.0749-26-1803  
 枚方営業所 ☎072-849-1888 FAX.072-849-1808  
 美濃営業所 ☎077-552-7361 FAX.077-552-7371  
 岐阜営業所 ☎0584-77-5347 FAX.0584-77-5348  
 三浦営業所 ☎0595-26-2730 FAX.0595-26-2731  
 尼崎営業所 ☎06-4950-0416 FAX.06-4950-0417  
 北塚営業所 ☎0761-24-0991 FAX.0761-24-0992

ユーザー通信オンライン  
<https://ut-net.jp>

紙面掲載以外の  
 記事はこちらで!

# CoroMill® MS20

## 革新的新型肩削りフライスカッター



# SANDVIK Coromant

# 万能フライスカッター『CoroMill® MS20』導入

## サンドビック

サンドビック・コロマン(カンパニー)本社(名古屋西區)は、万能フライスカッター『CoroMill® MS20』の販売を開始した。

CoroMill® MS20は、肩削り、正面フライス、溝加工、ランピング、プランジ加工など、様々な幅広いフライス加工に対応する万能フライスカッターであり、切込み量やアップ、ダウンミリングに拘わらず、切刃上で



優れた寸法精度が得られ、高精度で優れた面粗さの肩削りフライス加工を実現する。

カッターボディは新材質を使用、高い疲労強度と耐変形性を実現し、長寿命を達成する。また、大きなチップポケットを設けているため、切りくず排出性を向上し、ステンレスや耐熱合金の長い切りくずにも対応できる。

チップはステンレス鋼(ISO M)および耐熱合金(ISO S)加工向けに最適化されたプレートの片面2コーナ仕様に、チップ寿命を向上させる。さらに、チップ厚みを厚く一定にしたことで、欠けを防止し、安定した性能を発揮する。

なお、ラインナップは、カッター径φ16〜φ84mmの87アイテムで、シャンクは、アーバ取付、円筒シャンク、CoroMount Cap、EHカップリング、ねじ式カップリングの5種類。チップはM・M20(オーソテナイト系ステンレス鋼用)、M・M30(二層ステンレスとインコネル用)、E・L50(チタン合金用)〔今冬発売予定〕3種類のチップ・ブレードで各被削材・用材種11アイテムを展開している。

「研削革命」を掲げる岡本工作機械製作所(本社(群馬県安中市、石井常路社長)はJIMTOF2024で、多様な研削ニーズに応える最新機種をそろえた。中でも、EV車での塗工装置部品や半導体部品の原材料となる脆性材加工への対応を強調した。また、超精密・鏡面加工に加え、機上計測やロボット活用により自動化・高能率・複合加工などを実現したほか、立軸ロータリー

**ユーザー通信オンライン**  
<https://ut-net.jp>

紙面掲載以外の記事はこちらで!

安田工業(本社(岡山県浅口郡里庄町、安田拓人社長)はJIMTOF2024で、冷間鍛造金型や航空機部品など大型ワークの高精度加工に対応する5軸マシニングセンターとオートワークチェンジャー(AWC)の連携による、高精度5軸部品加工の「自動化」を提案。熟練者でなくても容易に操作できる計測ソフトを備えるなど、同社の強みである高精度・超精密に加え、自動化・無人化や使いやすさのアピールに努めた。

# 早くも「MECT2025」出展申し込み終了

## 受付開始2週間で満小間に

奇数年では国内最大級の工作機械・技術の専門見本市となる「MECT(2025)」を主催するロテックジャパン(MECT2025)は、11月1日に開始したMECT2025

25の出展募集を、11月14日をもって受付を締め切ったと発表した。同展示会の出展申し込み小間数が、早くも、会場の収容力の上限に達したためであり、当初は来年2025年2月28日までとしていたが、期間を前倒して終了した。これは、2023年10月に開催した前回展を上回るペースでの出展申し込みであり、最終小間数は2000小間程度の開催規模を見込む(小間数の確定は25年6月頃)。通算19回目となった前回展「MECT2023」では、490社・団体(2101小間)が出展し、会期4日間で77225人が来場した。

の樋口八郎社長は、「地政学的リスクなどのさまざまな懸念材料があり、先行きが不透明な中で多くの出展申し込みをいただいたのは大変光栄なこと。自動化や環境対応など製造業が抱える課題の解決策を見つめられる場とすべく、MECT2025の開催に向けてしっかりと準備を進めていきたい」とコメントしている。

MECT2025の概要は、次のとおり。

- 会場(ポルトメッセ なごや(名古屋港区))
- 開催期間(2025年10月22日(水)〜10月25日(土)の4日間)
- 開場時間(10時〜17時/最終日25日(土)は16時まで)
- 主催(ロテックジャパン)

日本AM協会(永安悟会長)は11月1日より、大阪市福島区に事務所を移転した。移転先の住所、連絡先は次のとおり。

- 〒533-0003 大阪市福島区福島5-6-16、ラクザ大阪2階。TEL:050-6883-2173、事務局携帯:090-5676-3696。sawakoshi@san.or.jp (Eメール)。

# 工作機械各社×JIMTOF2024

## 「大型」脆性材「自動化」、…加工ニーズ競演



三井精機の大型マシン「HPS150」

三井精機工業(本社(埼玉県比企郡川島町、川上博之社長)はJIMTOF2024で、会場を圧巻する大型高精度横形マシニングセンタ「HPS150」を初披露。元々は、高精度工作機械を製作する社内機械設備として活用していた機械を、外販向けに展示・提案した。三井精機では、高まる大型加工のニーズに対応し、積極的な販売活動に取り組む。

「研削革命」を掲げる岡本工作機械製作所(本社(群馬県安中市、石井常路社長)はJIMTOF2024で、多様な研削ニーズに応える最新機種をそろえた。中でも、EV車での塗工装置部品や半導体部品の原材料となる脆性材加工への対応を強調した。また、超精密・鏡面加工に加え、機上計測やロボット活用により自動化・高能率・複合加工などを実現したほか、立軸ロータリー

いつまでも「昭和」思考は続かない。

新しい力は新しいやり方で力を発揮する。  
 勢いある新世代の力をオールドパワーがしっかり支えて  
 次世代に引き継いでいく。  
 エーレックは、人生100年時代を見据えた  
 人材の価値提案を行っています。

**【労働者派遣事業】**  
 御社のニーズを汲み取り、最適な人材を派遣

**【フィールドメンテナンス事業】**  
 家電・OA機器のメンテナンスサービスを提供

ツーリングコンシェルジュ・清水浩の『工具需要の視点』特別編 ④5

ものづくり図録  
「ライナーノーツ」

『各種リーマ刃型』(解説其三)

「バニッシュリーマ」「焼結ダイヤ付リーマ」「Vリーマ」について

⑯はバニッシュリーマと命名されていますが、リーマと称する切削工具は、面粗さの向上を図るために、すべて外周当たり部(マージン)が設けられています。

わざわざ「バニッシュリーマ」と呼ぶのは図示の通り、幅が0.1D~0.2D(D:リーマ外径)と広く、仮にφ10なら1mm幅。一般のリーマより10倍程度広く設定されているからです。

さらに後方にはガイド刃も設け、面粗さを高める技術を採用しています。もちろん被削材(鋼材、鋳鉄、アルミ、銅合金など)によって変化を生じます。

広い幅なので摩擦抵抗が高く、取り代や回転速度、送り速さも加味する必要がありますが、リーマには共通していえることです。面粗さには切削油も顕著であり、水溶性より油性が有効かと思えます。

⑰は鋼材、アルミ材、鋳鉄材ではなく、自動車エンジンに組み込まれる特殊な焼結部品を加工する焼結ダイヤ(PCD)をロー付けしたφ8リーマの事例です。

当初は超硬一体形状でしたが、焼結材質が硬化品に変更された結果、約1000穴の寿命が100穴以下に低下したため、過去に経験のない「焼結ダイヤ付」に変更しました。

その結果、砥石や作業者の刃付け技術も大いに变化した経験があります。ダイヤ部を0.02程度の微少な研削代を、手作業で研削することは非常に困難な作業でした。

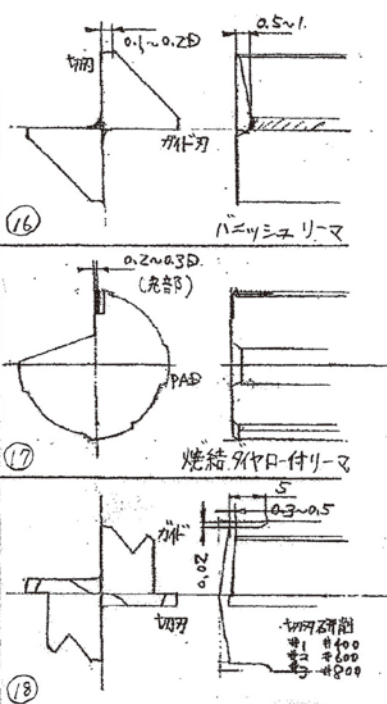
⑱は某社で開発された特殊リーマで、Vリーマと呼ばれていました。私は1種類採用した経験があります。

アルミ材加工に有効で、前加工後、取り代0.02程度を2枚刃で加工後、約5mm後退した個所の仕上げ刃と、ガイド刃で高精度な内径を確保する構造でした。

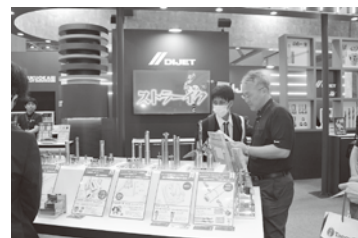
形状は⑳のF社製と類似しています(269号・9月28日号に掲載)。私が関係していた再研削部署のレベルは高かったのですが、この製品は再研削が難しく、かつ加工コストが高いため、採用には至りませんでした。

(続く)

各種リーマ刃型(参考図)



(清水浩)



「手描きスケッチ」による加工改善事例がJIMTOFにも登場

ダイジェット工業(本社大阪府平野区、生悦住)は、2024年JIMTOF大阪に「手描きスケッチ」による加工改善事例を展示した。事例は「手描きスケッチ」による加工改善事例がJIMTOFにも登場

また、工具別に加工改善事例を「手描きスケッチ」で紹介した事例がJIMTOFにも登場した。事例は「手描きスケッチ」による加工改善事例がJIMTOFにも登場

日新ダイヤモンドが社名変更

「オーエスジー」(本社大阪府豊中市)は、12月1日より「日新ダイヤモンド」に社名を変更する。今回の社名変更は、オーエスジーがオランダに本社を置くPrecision Tools Holdingの傘下のContour社に事業を譲渡したことに伴うもので、微細・超精密加工用の単結晶ダイヤモンド工具の製造

日新ダイヤモンド、製品価格を改定

12月1日付で、社名を「オーエスジー」に変更する日新ダイヤモンドは、来年1月1日受注分から、全製品11%アップ。改定を実施する。対象製品は全製品で、改定率は11%アップする。今回の価格改定については、原材料の高騰およびエネルギー費、販売が一つのグループとして対応できる体制が整ったこと、微細精密加工分野での飛躍を目指す。

人事

アラカルト

オーエスジー

組織改正
オーエスジーは2024年12月1日付をもって、次の通り組織改正を行う。
(1)組織の改正(1)
1)経営戦略センターを新設する(2)目的と組織構成(2.1)経営戦略センターは中期経営計画の推進および資本政策、財務戦略の遂行、経営企画室、経理室で構成する。
(2)新任常務執行役員候補者
(3)新任常務執行役員候補者
(4)新任常務執行役員候補者
(5)新任常務執行役員候補者
(6)新任常務執行役員候補者
(7)新任常務執行役員候補者
(8)退任予定執行役員

取締役および執行役員

オーエスジーは2024年11月18日の取締役会において、2025年2月21日付の取締役および執行役員の体制について、次のとおり内定した。なお、取締役および執行役員は、2025年2月21日開催予定の第112回定時株主総会およびその後の取締役会の承認を得て、正式に決定される予定。
(1)重任取締役候補者
(2)重任取締役候補者
(3)重任取締役候補者
(4)重任取締役候補者
(5)重任取締役候補者
(6)重任取締役候補者
(7)重任取締役候補者
(8)重任取締役候補者

人事異動

またオーエスジーは、2024年12月1日付をもって、次のとおり人事異動を行う。
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹
(部長)西村直樹

産業・工業・機械
基板用硝子
耐熱用硝子
電子用硝子
石英硝子
光学研磨硝子
バイレックス
バイコール
平岡特殊硝子製作株式会社
〒550-0013 大阪市西区新町4-7-8
TEL. 06-6531-2505 FAX. 06-6538-2225

ユーザー通信オンライン
https://ut-net.jp
紙面掲載以外の記事はこちらで!

# DMG森精機 × JIMTOF 2024

世界・日本・アジア「初出展機」が揃い踏み



日本初出展の「INH 63」

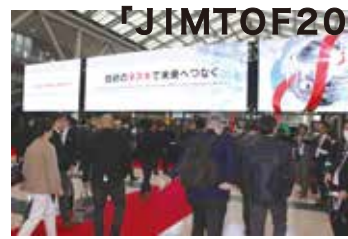


世界初出展の「NLX 2500-700 2nd Generation」

## 「MX」テーマにデジタルソリューション強調

DMG森精機グループは、地球環境の保護に貢献するGXの取り組みをはじめ、全体プロセスから生じる情報の収集・可視化・分析を行うデジタルソリューションを強調した。今回のJIMTOFでは、最大規模となった東8ホール全館使用のブースで「加工と自律走行ロボットによる切りくずバケットの自動化事例を実演した。一方、南1ホールのAMエリアでは、最大4つのレーザを搭載可能なパウダーベッド方式(SLM)のレーザ金属積層造形機「LASER TEC 30 S」の自動化事例を実演した。また会期中は、近隣となる東京グローバルヘッドクォーター(江東区潮見)にて、オープンハウス(招待制)を同時開催し、最新機種を含む12台の工作機械と自動化システムの展示に加え、実演加工と製品説明のプレゼンテーションを実施するなど、独自の展示会戦略を展開した。

## 「JIMTOF2024」に13万人来場



検査・測定分野に「おもしろい」「深堀りしたい」案件多し?

## オーエスジー×JIMTOF2024 テクニカルワークショップで『GREEN TAP』など新製品紹介

### 目立った「対面営業」重視のブース展開

オーエスジー(本社)愛知県豊川市、大沢伸朗社長兼COOはJIMTOF2024で、生産現場の人手不足や持続

可能社会の実現に向けた環境配慮製品、幅広い用途に対応するAプランD工具など、豊富な製品シリーズを展示・加工実

演した。会期2日目の11月6日には、「脱炭素・脱トラブル・脱チョコ停・環境と現場にやさしい新製品紹介」をテーマとした、テクニカルワークショップを開催、新製品を中心に紹介した。



来場者とのリアルな対話シーンが目立った



開発担当者が新製品を紹介

講師を、同社開発グループ穴の溝口哲也氏、野田尚太郎氏

が務める中、兼ねてより注目度の高かった新製品、高性能・低炭素型転造タップ「GREEN TAP(GRT)」について、開発目的や独自の特長を説明した。GRTは、独自の新製法を採用し、タップ製造時の消費電力量を削減することで、CO2排出量を削減する。「環境に配慮した製品を提供すること、持続可能な社会の実現に貢献したい」と溝口氏は強調する。

加えて、「被削材の塑性流動をCAE解析し、刃先強度を最大限に高めるために開発された特殊ねじ部仕様で、耐折

損性・刃先強度が向上し、高い耐久性を実現する」など特長的な形状について続けた。

またブースでは、工具の在庫管理をデジタル化する自販機「MONO Lithbox」モリスボックス)のJIMTOF初展示や、小型MCに搭載可能な軽量大径ディスクカッターの、つなぎ目のない均一な加工面を実現する実演デモを披露。アルミニウム合金、銅合金の鏡面加工ワークなどの展示品を手にとっての、来場者とのリアルな対話による対面営業を重視したシーンが目立った。

ユーザー通信オンライン  
<https://ut-net.jp>

紙面掲載以外の  
記事はこちらで!



**Grinding Technology Japan 2025** 研削加工技術と工具製造技術展

現場の答えが見つかる  
研削加工の専門展示会

[www.gtj-expo.jp](http://www.gtj-expo.jp)

**SiC, GaN 加工技術展 2025**

先進パワー半導体  
ウエハ加工技術に関する専門展示会

[www.sicgan-expo.jp](http://www.sicgan-expo.jp)

**2025.3.5(水)~3.7(金) 幕張メッセ**

主催 / 日本工業出版 産経新聞社